

【新川地区】CS地区ミーティング

と き 令和4年10月11日(火) 19時～

ところ へきなん福祉センターあいくる

出席者 35人

Q1 保護司【福祉・子育て】

地方再犯防止推進計画策定について、令和8年度の策定予定に向けて、現在の進捗状況を教えて欲しい。

A 福祉こども部長

令和8年度に改定する「碧南市地域福祉計画」の中で、当市の再犯防止推進計画を盛り込む予定。近隣各市も概ね同様の形態をとっており、現在は、既に策定済の愛知県の計画及び県内各市が策定された計画の情報収集を行っている段階である。

Q2 農業委員会【まちづくり】

北新川駅について、今後、市として開発の計画はあるか。

A 建設部長

名鉄各駅の駅舎は、名鉄の所有となっており駅舎の建て替え等は、名鉄が行っている。北新川駅駅舎の建て替えについて、名鉄に確認したところ、現時点では計画がないと聞いている。しかしながら、北新川駅については、駅前広場や駅西側からのアクセス等の課題があり、まちづくりの基本方針である「碧南市都市計画マスタープラン」においても、「駅周辺の基盤整備」を図るエリアとしており、駅前広場を含めた駅周辺の基盤整備の必要性は十分認識している。今年度から駅前広場や周辺のアクセス等の基礎調査を始め、周辺の交通状況やまちづくりの方針等の検討を進めたい。

Q3 子ども会育成連絡協議会【まちづくり】

公共施設の老朽化が目立ち、維持管理費もかさむため今後、どのように考えていくのか。

A 総務部長

市内公共施設のうち建築から一定の年数が経った施設は、老朽化が目立つようになってきた。代表的なものでは、文化会館が44年、保健センターが41年、公民館では約40年以上、保育園・幼稚園の園舎では50年以上が経過する施設もあり、建物の劣化や設備の故障による突発的な修繕費が負担となっている。市では、公共施設を持続的に維持していくことができるよう、平成26年度から碧南市公共施設維持基金を積み立て、令和3年度末で約10億円になっている。今後、施設の長寿命化のためにも更なる積み立てを行い、施設の大規模改修等の財源にしたい。また、昨年度、

碧南市公共施設等総合管理計画を見直したので、これに基づき、今後の公共施設のあり方や施設の統廃合も含めた検討を進めるとともに、維持費等の経費の節減に努める。

Q4 連絡委員【福祉・子育て】

碧南市の療育について、特に3歳～5歳の支援が必要な子どもに対して、保育園のように1日通える施設が必要だと考えており、ぜひ通所施設を作って欲しい。

A 福祉こども部長

早期の療育を行うことは、本人の困り感の軽減やその後のよりよい社会生活を送る上で大変意義のあることと認識している。そのため、市では就園前の子どもの発達が気になっている保護者に対して親子で通う早期療育の事業をへきなん福祉センターあいくる内で実施している。また、3～5歳の障害を持つ子の支援として、障害福祉サービスの保育所等訪問支援、福祉課が実施する巡回支援など、専門職が園に出向き、保育士が対象の子どもの状況の理解や、対応ができるようにアドバイスなども行っている。また、障害福祉サービスの充実に伴い、保育園に通いながら児童発達支援という制度を使って、小集団の療育をうけている子もいる。障害のある子にとって、施設での小集団と保育園での大きな集団では、成長を促すために、それぞれの効果がある。また、保護者もなるべく地域の中で、皆と一緒に過ごさせたいと希望されている方も多くいる。そのため、保護者の意向も伺いながら、障害のあるなしで、なるべく過ごす場所を分けないようにし、かつ、その中で子ども、保護者、支援者が無理なくやっていけるかを国の制度等を活用しながら対応している。現在では障害児通所施設を整備する計画はないが、障害を持つ子のための環境として、どのような体制がよいのか、皆様の意見を伺いながら現状の支援をさらによりよいものにしていきたい。

Q5 連絡委員【防災・防犯】

地区の防災訓練について、避難所開設の際にファーストミッションボックスを用いて臨時的に開設を行うが、本来の担当者は誰で、何をすればよいのか、また、その担当者に対する研修の場を作って欲しい。

A 市民協働部長

避難所の運営は、避難所を利用する人の自主運営が原則となり、町内会や自主防災会の役員、避難所を利用する人の代表者、市職員、施設管理者などで構成する委員会を設置し、運営に関わる事項を協議、決定していただくことになる。避難所において、市職員は食料や物資等の配給や、その他必要な支援を受けるため、市の避難所班と連絡をとることが主な役割となる。各避難所には避難所開設マニュアルが用意してあるが、避難所の運営は、総務班や名簿班、連絡・広報班、食料・物資班等々、各種の運営班にわかれており、状況も様々であるため、なかなか実際のイメージがしに

くいこともある。訓練として、HUG(ハグ)と呼ばれる避難所運営体験ゲームを利用し
ていただくことも一つの方法である。

Q6 連絡委員【そのほか】

区からの連絡方法について、市と同様に、区にもホームページやLINEを使える
ようにしてほしい。また、回覧板も将来的にDX化していくのか。

A 市民協働部長

区や町内会は地縁による任意団体であるため、区や町内会の総意にてデジタル化
を進めていただくのはとても画期的なことだと思う。ある地区では独自にホームペー
ジを立ち上げ、碧南市のホームページとリンクをはっている地区もある。市では地区に
対し、地域振興事業補助金の事業としてホームページ等を開設していただくことも可
能である。

Q7 連絡委員【防災・防犯】

自主防災会と避難所の紐づけについて、行政区単位でなく、避難する距離を優先
し、半径何百メートル以内の住民はこの避難所、というような見直しはできないか。ま
た、防災備蓄倉庫も避難所から離れている、複数の自主防災会が共有となっており、
運用面の不安がある。

A 市民協働部長

昨年度、各自主防災会に希望調査し、その要望に基づき自主防災会と避難所の紐
づけを決定した。避難所の数と自主防災会の数が一致していないことや公共施設が
各地域に均等に存在していないことから、必ずしも近くの避難所が担当になってない
のが現状なのでご理解いただきたい。

また、市内には38の自主防災会があり、指定避難所は35か所だが、防災備蓄倉
庫(コンテナ)の数は27か所。複数の自主防災会で共有してもらっている倉庫もある
のが現状で、各自主防災会ごとに1つずつを割り当てているわけではない。これは自
主防災会が複数の町内会で構成されているため、各町内会の利便性を協議した結
果、現在の倉庫の配置となっている。備蓄倉庫の移設や新たな設置は、場所の選定
や予算等の問題もあり、すぐには対応できないかもしれないが、新規整備も含めた備
蓄倉庫の配置について、一度見直しの検討をしていく。

Q8 連絡委員【そのほか】

町内会加入率について、コロナ禍で町内会行事の中止が相次ぎ、つながりが希薄
になっていると感じるが、コロナ以降の町内会加入率の変化を教えて欲しい。

A 市民協働部長

町内会加入率は、毎年1月1日時点の調査をしている。平成27年は78.4%、平

成28年は77.3%、平成29年は75.5%、平成30年は74.3%、平成31年は72.8%、令和2年は71.3%、令和3年は70.8%、令和4年は69.5%と、毎年下がっている。その原因は、同じ家に住んでいても世帯を分離する家族が増えたこと、外国人住民が増えたこと、高齢単身世帯の増加などにより分母となる総世帯数が増えていることである。実際の町内会加入世帯数自体はほぼ横ばいとなっている。令和5年の調査はこれから行うが、現時点での調査結果では、コロナ禍により町内会加入率に変化(減少)があったとは断言できない。

Q9 連絡委員【環境・衛生】

環境美化として、歩道の除草や明石公園の木の剪定を行って欲しい。

A 建設部長

碧南市内の道路は、県道は愛知県が、市道は碧南市が管理しており、雑草等の対応もそれぞれの管理者が行っている。植栽帯のある歩道は、年に2回から4回除草を実施しているが、具体的な除草箇所等を連絡いただければ、現地を確認のうえ除草の時期等に対応する。また、植栽帯のない歩道の道路との継ぎ目についても、現地を確認のうえ道路の美化に努める。

A 開発水道部長

明石公園の樹木の剪定は、樹木の状況を確認し、園路などを通行する利用者への影響、管理棟などの建物や遊具への影響及び外部からの見通しを考慮し、必要に応じて剪定を行っている。毎年度、樹木の剪定や伐倒などの対応をしているが、お気づきの場所があれば確認するので、都市整備課まで連絡をお願いしたい。

Q10 保育所等父母の会【福祉・子育て】

保育園のセキュリティ強化ということで、出入り口をカードキーやオートロックなどの対策をして欲しい。

A 福祉こども部長

出入口等における安全対策では、現在、オートロック機能がない園も、通常時は閉鎖し、園児が容易に開けて外に出られないよう対策を行うとともに、職員が巡視を行い、万が一見ない顔の方がいればすぐに声掛けするなどの対策を行っているが、園内全体の不審者侵入及び園児の予期せぬ外出防止の視点から、人的対応並びにオートロックを含めた物理的な対応について改めて点検を行う中で検討していく。また、年に複数回、園児も含めた不審者訓練の実施などにより、緊急時にもすぐに対応できるよう体制づくりも行っているが、安心して預けられる安全な園運営を目指していく。

Q11 保育所等父母の会【道路・下水道】

車通りの多い銀座通りや通学路の歩道の拡幅及び街灯の設置をして欲しい。

A 建設部長

新川小学校正門前の道路は、碧南市が管理する市道だが、将来的には愛知県において歩道が整備されることとなる。しかし、事業化については、沿線の皆様のご理解が不可欠である。地域の皆様のご意見をお聞きしながら検討していく。整備が行われるまでの間は、通学路に指定されていることから、道路の路肩に緑色の塗装(グリーンベルト)を施し、歩行空間を明示することで交通安全対策を図る。街灯の整備については、具体的な場所等の要望をいただければ検討したい。

A 教育部長

通学路の設定に関しては、各学校が新入学児・生徒がどこからくるか確認の上、歩道が整備され安全な通行が確保できる道路、横断箇所に横断歩道や信号機などの交通安全設備が整備されている道路、犯罪の発生状況などから注意を必要とする場所がない道路など、児童生徒の安全が確保される道路を通学路としているが、危険箇所については、各学校が毎年安全点検を実施しており、市教育委員会庶務課へ報告してもらっている。学校からの改善要望を受け、碧南市通学路安全対策連絡会にて協議をし、改善できる箇所については、対策を講じる。

Q12 保育所等父母の会【まちづくり】

公園について、キャッチボールやアスレチックできる場所の整備、古い遊具のメンテナンスをして欲しい。

A 開発水道部長

公園でのキャッチボールは、公園周辺の住民の皆様のご要望や、他の公園利用者への危険性及び、施設の状況、規模により安全を考慮し、禁止としているところがある。羽久手公園グラウンドなどの安全な運動施設での利用をお願いしたい。新たに整備する公園では、ワークショップを開催し、住民の皆様の意見を伺いながら、様々な遊具等を設置している。最近では、アスレチックではないが、複合遊具と呼ばれるすべり台、渡りロープ及びボルダリングのような登り板を組み合わせた遊具が人気のため、設置している。また、明石公園の東側トリムの森には、フィールドアスレチックが設置されているので、是非楽しんでいただきたい。遊具のメンテナンスは年4回の定期点検を行い、不良箇所は随時修繕し、老朽化した遊具は、順次更新をしている。

Q13 保育所等父母の会【まちづくり】

イオン東浦のような映画館もある大型複合商業施設を誘致して欲しい。

A 経済環境部長

大型複合商業施設は、幅広い年齢層の集客や、地域経済の活性化、賑わいづくりなどの面から魅力があるが、こういった超大型店の誘致には当然広大な敷地が必要

となる。例えばイオン東浦の場合は約9ヘクタールの敷地面積だが、残念ながら碧南市はこのような広大な土地を持っていないので、市が主導して大型複合商業施設を誘致するという事は難しい。また、仮に民間の事業者が市内の農業振興地域に進出を希望したとしても、農地を転用しての大規模な開発行為には、国の許可が必要となる。本市周辺の土地利用や人口増加の状況などから、国が許可する可能性は極めて低いと想定され、民間事業者の自発的な出店の可能性も見込めないと考えている。

Q14 保育所等父母の会【まちづくり】

都市計画の見える化について、いつ、どのような施設ができるのか分かるようにしてほしい。

A 建設部長

道路、公園等の都市計画施設等の整備方針については、令和元年10月に改訂した「都市計画マスタープラン」に記載している。目標年次は10年後としているが、20年から30年後を見据えた長期の計画となるので、財政状況等を考慮しながら進める。具体的に整備時期が決定したものについては、碧南市総合計画の3か年の実施計画を毎年作成しており、市のホームページにも掲載しているので、ご確認をお願いしたい。

Q15 保育所等父母の会【道路・下水道】

市内道路の清掃・除草について、特に産業道路に草がたくさん生えているが、市内道路は誰が維持管理しているのか教えて欲しい。

A 建設部長

碧南市道の清掃については、定期的に行っていないが、街路樹の落ち葉が多い道路は、時期を考慮しながら行っている。ごみの不法投棄や草の繁茂が著しいところがあれば、現場確認し対応するのでご連絡いただきたい。また、11月20日には碧南市内全域でクリンピーが開催される。自宅周りの道路の清掃や除草についても危険のない範囲でご協力いただきたい。

また、ご指摘の産業道路(国道247号)の管理者は愛知県が行っている。草や樹木が繁茂している状況は把握しており、草刈等の要望をしているが、維持管理費に限りがあり、すべてを対応することは困難な状況と聞いている。状況に応じて現地を確認し愛知県に要望するので、具体的に教えていただきたい。

Q16 老人クラブ連合会【環境・衛生】

主要道路の歩道にある垣根の見映えについて、草や木が伸び放題で見映えが悪いため、管理を地元の方に任せたり、撤去したりできないか。

A 開発水道部長

市道の歩道植栽は、樹木の種類により作業の回数は異なるが、年にかん木刈込を1回～3回実施し、除草を2回～4回実施している。樹木や草の伸びる時期が集中するため、一時的に草木の伸びが目立つ場所もある。市内の国道・県道は、愛知県の管理になっており、愛知県の知立建設事務所が維持管理を行っている。草や木が伸びすぎているところがあれば土木港湾課もしくは都市整備課までご連絡いただきたい。

碧南市では、緑の基本計画を基に、緑のまちづくり目標と基本方針を決めている。その中の1つに「身近な緑を増やし、快適な市街化環境を造ります」と定めているので、基本的には樹木の撤去は考えていない。今後は今まで以上に、適切な管理を心がける。

A 経済環境部長

管理を地元の方々に任せる方法としてはアダプト・プログラムという制度がある。この制度は、道路など一定区画の公共の場所で市民がごみ拾い等清掃美化活動を行い、行政がこれを支援するというものである。現在、市内44箇所（市道19団体、県道17団体、市道・県道両方2団体）がこのプログラムに登録し、活動を行っている。もし、こうした活動にご賛同いただける団体があれば、環境課にご相談いただきたい。

【中央地区】CS地区ミーティング

と き 令和4年10月6日(木) 19時～

ところ 中部公民館

出席者 21人

Q1 女性団体連絡協議会【環境・衛生】

廃油回収事業について、広報には3か月分がまとめて掲載されているが、毎月の掲載にして欲しい。また、廃油石けんは作っているか。

A 経済環境部長

廃油回収事業の広報紙掲載については、皆様の配布の負担軽減のため月1回とし、ペーパーレス化の推進に伴い、3か月分の予定を掲載している。今後、広報に加え、碧南市公式 LINE アプリも活用し、市民の皆様への更なる周知に努める。廃油石けんについては、以前は衣浦衛生センター敷地内にある建物内にて製造していたが、令和元年度に廃止した。現在、回収した廃油はリサイクル事業者に取り扱ってもらい、ペンキの原料や家畜の飼料にしている。今後も引き続き、啓発活動に努める。

Q2 女性団体連絡協議会【防災・防犯】

防災の高台を公園に作って欲しい。

A 市民協働部長

市が策定した津波避難計画では、特に市南部の前浜地区及び川口地区を避難困難地域と位置づけている。川口地区については、垂直避難ができる施設として川口結いの家と中部電力川口寮を一時退避場所として指定し、地区の全員が避難可能である。前浜地区については、前浜集落センターに全員が避難できるだけのスペースがないことから、徒歩で移動可能な方は南部市民プラザ、大浜小学校、トヨタ自動車アリビオ衣浦寮に避難していただき、移動が困難な方や要配慮者等は、前浜集落センターに避難をすることを想定している。また、大浜下区については避難困難地域ではないが、同様に南部市民プラザや、大浜小学校、トヨタ自動車アリビオ衣浦寮に避難していただくことになる。

今のところは、これらの避難方法を活用することにより、津波からの避難は可能であると考えているので、新たに垂直避難ができるような防災の高台を設置する予定はないが、伊勢区画整理地内の保留地において、公共施設を建設する際には、垂直避難を意識した設計を取り入れるよう検討していく。

Q3 女性団体連絡協議会【まちづくり】

碧南中央駅の空き店舗の使い道はないのか。

A 経済環境部長

碧南中央駅の空き店舗は、名古屋鉄道株式会社の所有となる。昨年、防犯上の問題も懸念されるため、テナントの有効活用を共に考え、対応策の検討や協力をお願いした。名古屋鉄道株式会社からの回答は、「碧南中央駅に限らず、駅の空き区画について、周辺の賑わいづくりや利便性向上のために、テナント誘致活動などを継続して行い有効活用を図っているが、現在、碧南中央駅についてはテナントの誘致が難航している」とのこと。碧南駅前の開発が、現在行われているが、碧南中央駅だけでなく、碧南市内の駅周辺が賑わうことが、町の活性化につながると考えている。

市では、起業家支援として、創業にかかる経費について100万円を上限に助成する制度を設けており、駅の空き店舗で事業を始められる方も対象となる。こういった制度を広く周知するとともに、新たな駅周辺の活性化策についても検討していく。

Q4 女性団体連絡協議会【福祉・子育て】

市民ふれあいフェスティバルの閉会の理由と今後の方針は。

A 福祉こども部長

市民ふれあいフェスティバルは、開催の趣旨を「営利活動のみを目的とせず、暮らし、健康、福祉をテーマとした内容で、各団体等の活動内容の周知を図ることとして行われる市民まつり」としており、開催の目的は各団体等の活動内容のPRだった。令和2年度以降の新型コロナウイルス感染症感染拡大防止に伴う開催中止をきっかけとして、市民ふれあいフェスティバル事業の今後のあり方について検討を行った結果、過去30年間でインターネット及び携帯電話の普及等通信技術の発達により多くの人がホームページ又はSNSを活用するようになった現在、市としては各団体等の活動内容のPRという当初の目的は果たされたと考え、市民ふれあいフェスティバル事業の終了を検討している旨を示した上で、出展団体からアンケートにより意見を聴取し、その結果を基に結論を出すことにした。実施したアンケート結果を踏まえ、事業の終了について、「市の方針に賛同若しくはやむなし」及び「どちらでもよい」を合わせた割合が全体の8割以上であったことから、令和3年度をもって市民ふれあいフェスティバル事業は終了とすることとなった。

市民ふれあいフェスティバルの今後の在り方については、当初の目的が果たされたとの判断のため市として代替イベントの開催は考えていないが、参加団体に対し、個別に要望があれば、団体の意向に沿うイベントの情報提供や主催者への橋渡し等は協力させていただく。

Q5 女性団体連絡協議会【環境・衛生】

リサイクルプラザについて、碧南市の北にあり、南部の市民には遠いことから、中央・大浜地区にあると便利で利用者も増えるのでは。

A 経済環境部長

リサイクルプラザは碧南市と高浜市で構成する衣浦衛生組合が運営し、利用対象者は碧南市民と高浜市民で、現在は両市にまたがるクリーンセンター衣浦の隣接地で運営している。リサイクルプラザが市の中央部に在る方が碧南市民の利便性は向上するが、組合を共同で構成する高浜市民にも配慮する必要がある。また最近では、民間のリサイクルショップが出店されたり、メルカリやヤフオクといったインターネットを活用した個人間の売買サイトも充実してきている。こうした現状からも、中心部への移転や新たな施設の開設は考えていない。

Q6 女性団体連絡協議会【まちづくり】

衣浦ポートアイランドについて、別名「夢の島」と言われ、当時は楽しい施設ができると希望、夢を思い思いに描いていた。現在はどのようになっているのか。

A 建設部長

衣浦ポートアイランドは、総全体面積47.3ヘクタール、9～10メートルの深さを埋め立てる計画であり、この埋立事業は愛知県が行っている。平成5年2月に工事着手し、護岸については既に概成し、現在の埋立ての進捗率は約99%と聞いている。衣浦ポートランドの土地利用計画は、新たなふ頭を整備するとともに、これに関連する業務用地及び港湾緑地となっており、耐震強化岸壁を有する国際物流拠点として活用される予定となっている。埋立事業がまもなく完了する見込みであるので、耐震強化岸壁の新規整備などについて、国・愛知県に要望をしているところである。

Q7 女性団体連絡協議会【文化・教育】

大浜てらまちコースについて、永井直勝の父が住んでいた跡地を何らかの形で残せないか。

A 教育部長

平成24年度に開催した企画展「永井直勝とその一族」で、長田屋敷が宝珠寺の南東付近にあったことを示す絵図を紹介した。このように、企画展など折に触れて長田屋敷があったことを紹介していきたい。

Q8 女性団体連絡協議会【文化・教育】

堀川沿いにある旧大浜警察署の内覧ができるようにならないか。

A 教育部長

旧大浜警察署については、まちづくりの一環として景観を残すということで外観整備されたもの。平成18年に実施した耐震診断の結果、コンクリート強度が指針強度以下であったため、内部利用については断念し、内部を鉄鋼の骨組みにより補強工事したことで人が建物の中に入れなくなっている。

Q9 女性団体連絡協議会【まちづくり】

堀川沿いの魚市場が無くなってしまったが再生はできないか。

A 経済環境部長

堀川沿いの鮮魚店の閉店については、古くから創業されており、地域の方に愛され、市外からも多くのお客様がお越しになっていたことは承知しており、市としても、とても残念に思っているが、事業者の方の判断になるので、当該店舗の再生、再開となると、現時点では「難しい」といわざるを得ない。近年、中小企業・小規模事業者の経営者の高齢化が進む中で、事業承継(会社の経営権を後継者に引き継ぐこと)は重要な課題になっている。事業承継を進めるにあたって、「どこから手をつけたらいいかわからない」とか「誰に相談したらいいかわからない」と悩んでいる経営者も多いと思われる。碧南商工会議所で事業承継に関する「セミナー」や「相談会」を実施しており、市でも企業訪問等でご相談をいただければ、愛知県事業承継・引継ぎ支援センターの専門家につなぐなどの対応をしている。古くから親しまれてきた店舗や事業所が、後世に引き継がれるよう、事業承継に関する啓発、PRに努める。

Q10 連絡委員【まちづくり】

スケートボードパーク周辺について今後の整備計画はあるのか。パーク東側の遊休地の活用とトイレの照明を明るくして欲しい。

A 開発水道部長

スケートボードパーク東側にある初心者エリアの拡張については、スケートボードの利用者団体の皆様から要望をいただいております。既存の緑地エリアの利用状況と調整を図りながら、今後検討したい。特に、釣りを楽しむ人達からは、スケートボードパークを整備する際に、「釣りをする場所が減るのは困る」等の要望をいただいておりますので、調整が必要と考えています。

また、港南緑地のトイレの照明灯については、7月に球切れの連絡をいただき、照明灯の交換をした。今回のご意見を頂き点検したところ、外壁の照明灯始め3灯が点灯していない状態だったので、修繕している。担当課で定期的に点検をしているが、今後も不具合など気になる点があれば、公園・緑地を担当している都市整備課に連絡いただければ、早急に対応していく。

Q11 連絡委員【まちづくり】

末広公園・末広東公園等の樹木について、安全面等を考慮し、枝の剪定や樹木の伐採をして欲しい。

A 開発水道部長

末広公園、末広東公園等の昭和50年代に設置された公園は、都市の中に緑に囲

まれた空間を創出するため、外周部分に樹木を配置した公園になっている。特に落葉樹は秋から冬にかけ、葉が落ち周辺の皆様にご迷惑をかけているが、季節ごとに変わる葉の色彩や枝ぶりの美しさが魅力の一つである。供用から40年以上経過し、想定以上に樹木が成長し道路への枝葉の越境により、市民の皆様にご迷惑をおかけしている場所もある。市内には、昭和50年頃から60年頃に供用開始された街区公園が20箇所ほどあり、ご指摘の末広公園と同様の問題を抱えている。本来は、緑を保全する立場であるので、樹木管理は剪定にとどめ、伐採は実施していなかったが、今後は伐採による間引きも取り入れ、適正な樹木管理を行いたい。

Q12 連絡委員【道路・下水道】

水族館から明石公園までの遊歩道について、樹木を間引いて欲しい。また、路面が非常に悪い。碧南市としての対応計画は。

A 開発水道部長

水族館から明石公園までの遊歩道は愛知県の管理である。両脇にある植栽帯は、水族館から新川までは西側が愛知県、東側が碧南市、新川から明石公園までは全て愛知県の管理となっている。愛知県の管理内容は、遊歩道の路面を年1回点検し、植栽については、遊歩道から3メートルの範囲について、年1回剪定と除草を実施していると伺っている。碧南市の管理内容は、清掃を月1回、除草を年3回、高さ2～3メートルの灌木刈込を年1回実施している。樹木の間引きについては、愛知県、碧南市とも実施していないが、間引きや強剪定の要望は市民の皆様からもいただいているので、碧南市として事業化できるよう調整しており、早く実施できるよう検討していく。

Q13 連絡委員【防災・防犯】

天道共有防災倉庫の設置場所について、現在の設置場所は海拔が低く、水路からも近いということで高台などへの移動を。

A 市民協働部長

ご指摘の防災倉庫は、道場山区自主防災会と天王らくらく自主防災会が使用する保健センター第2駐車場に設置してある防災備蓄倉庫のことだが、防災備蓄倉庫は、市内の小中学校等の公共施設や公園等の敷地内に配置しており、その場所は各自主防災会と協議をしたうえで配置しており、管理も自主防災会にお願いしている。ただ、浸水想定のある場所に配置している倉庫も実際にあるので、そういった倉庫については、今後、各自主防災会のご意見を伺いながら、移設について検討したい。

Q14 連絡委員【道路・下水道】

中山神明社東側道路について、横断者も多いため、神明社東側に横断歩道の設

置ができないか。

A 市民協働部長

横断歩道の設置は警察署の管轄になる。道路の交通量、横断する歩行者の想定数、歩行者が安全に待つ場所(滞留場所)の有無等を総合的に考慮して警察署が判断する。ご指摘のとおり、中山神明社東側道路には横断歩道がなく、歩行者は信号交差点まで回らなければならない、歩行者にとって不便な交差点となっている。碧南警察署交通課に事前に要望・確認したところ、「南側にある文化会館南交差点の横断歩道との距離が近すぎて、横断歩道の設置は難しい」との回答だった。今後とも横断歩道の設置要望は、碧南警察署の交通課に直接要望することになるが、地域協働課にご相談いただきたい。

Q15 連絡委員【そのほか】

元気っス総踊りについて、他県ではお祭りが復活されつつあるので、来年度の総踊りはできそうですか。

A 市民協働部長

元気ッス！へきなんは、今年度、総踊りを中止し、「まんぷく元気ッス！」と銘打ち、飲食を中心としたイベントとして7月30日(土)に臨海公園で開催した。昨今の近隣地域におけるイベント開催状況をみますと、豊田市のおいでん祭りや名古屋市のど祭り等、通常開催に近い形で開催されている。来年度は、現在、総踊りをメインとした通常開催に向けて準備を進めている。市民のつながりを深め、世代間交流やまちの活性化を図ることを目的とした碧南市における最大の市民参加イベント。通常開催の暁には中央地区の方のご参加をお待ちしているので、一緒に盛り上げていきましょう。

Q16 連絡委員【環境・衛生】

ゴミの不法投棄について、同じ場所で不法投棄が何度か続いている。市指定のゴミ袋にも入っていないため、いい方法はないか。

A 経済環境部長

ごみの不法投棄は、市内のいたるところで発生しており、市としても頭の痛い問題であるが、原因者の特定が難しいのが現状である。不法投棄が同一箇所で継続される場合は、現地に看板を設置したり、特にひどい場合は夜間に職員が張り込みをしたりして、抑止に努めているところだが、正直、いたちごっこということで非常に残念である。不法投棄されたものの中から原因者の特定ができる場合には、直接の対応を実施している。該当の場所は、看板の設置などで対応を実施していると確認しているが、未だに問題が解決していない場合は、改めて担当部署の環境課にご相談いただきたい。

Q17 小中学校幼稚園PTA連絡協議会【文化・教育】

タブレット活用による学校授業オンライン対応について、コロナなど学級閉鎖時にタブレットを活用してオンラインで授業を進めて欲しい。

A 教育長

1人1台のタブレット端末を活用した授業を行うGIGAスクールについては、令和3年度から授業において活用を進めている。オンライン授業についても、教師に対して様々な研修を進めている。実際に、ある中学校の学級閉鎖時にタブレット端末を持ち帰り、隣の学級の授業を配信したこともあったが、すべての学校でオンライン授業が行われたわけではない。オンライン授業を試行的に行った学校では、いくつかの課題もあった。例えば、子どもたちとの双方向の授業を行うには、授業者がタブレットの操作と授業を行う複数作業をすることになり、通常の授業のように進めることが大変難しかったことや、機器に不具合が出たときに、子どもだけでは直せないケースもあった。

GIGAスクールについては、各学校の情報教育推進員がタブレット端末の利用状況を把握し、活用を推進している。さらに、各学校の情報教育推進員の間で情報共有を密にし、学校間での格差が広がらないよう配慮している。また、夏季休業中などには、教員研修でICT支援員が市内全校を巡回し、導入しているアプリを使用して健康観察や電子黒板を利用した連絡についての研修を行い、タブレットの持ち帰りを見通した操作練習も進めている。学級閉鎖などがあったときにオンラインでの学習を行うことができるよう取り組んでいるところである。

Q18 小中学校幼稚園PTA連絡協議会【福祉・子育て】

高校世代の通院費無料化について、全国的には実施している自治体が増えている、高校世代にしっかり必要な医療を与えて欲しい。

A 健康推進部長

令和4年4月の診療分から、中学生までの入院・通院に加え、高校生までの入院費を新たに医療費助成の対象とした。令和4年4月1日現在における医療費制度の愛知県内の状況だが、高校生世代まで入院及び通院費の助成を実施しているのは、一部助成や所得制限を設けている市も含めて、54市町村中16市町村であり、全体の3割となっている。また、西三河9市1町では、通院はすべて中学生までとなっており、高校生の通院まで助成の対象としている市町はない中で、今の段階では実施する状況にはない。今後の医療制度の推移や愛知県内、西三河9市1町の状況を注視していく。

Q19 小中学校幼稚園PTA連絡協議会【環境・衛生】

油ヶ淵堤防の除草について、散歩やジョギングをする人など利用者が増えている

が、草が伸びていてもなかなか除草がされていない、除草頻度を増やして欲しい。

A 建設部長

油ヶ淵の堤防は愛知県が管理する堤防道路であり、除草頻度は、場所によるが、年に1回若しくは2回の除草を実施していると聞いている。今年度は、7月24日に行われた「油ヶ淵浄化デー」の前に1回目の除草を実施し、完了している。愛知県に問合せたところ、「その必要性は認識しているが、厳しい財政事情の中これ以上の頻度を上げることは厳しい」との回答をいただいた。散歩やジョギングなどでの堤防利用においての利便性の向上や安全対策については、愛知県と共に検討していく。

Q20 保育所等父母の会【福祉・子育て】

保育園での出席確認と安全確保について、通園バスに置き去りにされ亡くなった女児や、保育園から抜け出してしまい川で亡くなった男児など悲しい事故が起きている。碧南市においても職員間での情報共有や入口にオートロック機能を付けるなど安心して過ごせる環境づくりをして欲しい。

A 福祉こども部長

静岡県牧之原市で起こった通園バスでの置き去り事故については、本当にいたたまれない事故であり、本市においても、この事故を受け認可保育園・幼稚園・こども園に対し、安全管理の徹底について、速やかに注意喚起を行った。また、市内保育施設では送迎バスを活用している園はないが、遠足などで園外に出る際には全員の確認をしっかりと行うとともに、日常の出欠の確認についても確実にやっている。万が一連絡ないまま園児が登園していないケースがあれば、ご家庭に連絡し、状況を確認している。引き続き、在園確認の徹底と職員間の連携強化を行う。

出入口等における安全対策では、現在、オートロック機能がない園についても、通常時は閉鎖し、園児が容易に開けて外に出られないよう対策を行うとともに、職員による巡視を行い、万が一見ない顔の方がいればすぐに声掛けするなどの対策を行っているが、園内全体の不審者侵入及び園児の予期せぬ外出防止の視点から、人的対応並びにオートロックを含めた物理的な対応について改めて点検を行う中で検討していく。年に複数回、園児も含めた不審者訓練の実施などにより、緊急時にもすぐに対応できるよう体制づくりも行っているが、安心して預けられる安全な園運営を目指す。

【大浜地区】CS地区ミーティング

と き 令和4年11月11日(火) 19時～

ところ 南部市民プラザ

出席者 29人

Q1 小中学校幼稚園PTA連絡協議会【文化・教育】

ICT教育について、タブレットを活用したICT教育は教職員の働き方改革や労働時間の改善につながっているか。学校、学級によって差があるのでは。

A 教育長

教職員はタイムカードによって勤務時間を管理職がチェックし、どれだけ時間外勤務をしているかなど分かるようになっている。また、本年度より電話への対応について、小学校は18時半、中学校では19時以降は留守番電話になるようにし、万が一不測の事態の場合は、教頭が持っている携帯電話につながるようにした。

また、中学校の部活では、外部の講師に指導していただくことで教職員の負担を減らしている。西三河の中では、碧南市が一番働き方改革をしているというデータもある。今後も一層働き方改革を進めていく。

Q2 小中学校幼稚園PTA連絡協議会【まちづくり】

住みやすいまちについて、市政アンケートの結果について、若い世代と高齢者世代では乖離があるのでは。また、外食チェーン店の誘致や若い経営者がチャレンジ出来るような支援をするようなまちづくり構想はあるか。

A 総務部長

毎年18歳以上の1500人を対象に市政アンケートを実施している。この市政アンケートの結果で「碧南市の住みごこち」の年代別のデータで比較すると、令和3年度で「住みやすい」と回答した方の割合は、29歳以下が33.3%、30歳代が26.7%、40歳代が32.3%、50歳代が36.5%、60歳代が27.8%、70歳以上が39.3%となっており、この結果を見ると、若い保護者世代の考えと大きな乖離はないのではないかと考えている。

A 経済環境部長

外食チェーン、ショップなどの新規店舗の出店は、地域住民の利便性を高め、地域経済の活性化、賑わいづくりを期待することができる。しかし、店舗の新規出店は、まずは民間事業者の判断によって行われるものが基本となるので、市が主導となって誘致するという考えはない。なお、市内で創業する方への支援策として、創業チャレンジ補助金がある。5年間で30件の利用があり、ご好評をいただいている。

Q3 連絡委員【道路・下水道】

市道西浜2号線及び堤防歩道の歩行の便宜について、1つ目は玉津浦グラウンド駐車場の盛土及び周辺の草の伸びがある。2つ目は市道西浜2号線堤防歩道の草の伸びがある。3つ目は築山樋門横の児童公園へ入るのに、国道247号線からのスロープの設置について考えて欲しい。

A 教育部長

1つ目の玉津浦グラウンド駐車場盛土について、国道247号線道路改良工事を行っており、その工事で発生する残土を一時仮置き場所で使用している。使用範囲はカラーコーン及びバリケードを設置する。使用期間は令和4年8月26日から令和5年1月10日を予定。使用期間中は、工事車両の出入りや駐車場の利用制限でご迷惑をおかけするがご理解いただきたい。

玉津浦グラウンド付近と2つ目の築山雨水樋門横公園西側入口の草について、定期的に草刈りはしており、この秋に実施予定であったので早速、除草作業を実施した。

A 開発水道部長

2つ目の市道西浜2号線堤防上の西側遊歩道横の植栽帯の除草は年3回、その西側の港本町ちびっ子広場は除草を年6回実施しているが、雑草の伸びるのが早く、ご迷惑をおかけしている。管理を行っている都市整備課では、市内の道路植栽及びちびっ子広場の除草の年間回数については、それぞれ同じ回数を実施しているが、特にひどい箇所については、回数を追加して対応している。今後は、必要に応じて実施回数を見直し、適切な維持管理を行いたい。

A 建設部長

3つ目の国道247号沿いの堤防については、愛知県衣浦港務所が管理者となっており、伊勢湾台風の際に設置され、高潮から内陸部の浸水被害を守る役割があり、安易に取り壊すことができない。ご質問の堤防の上への階段やスロープの設置については、地域住民の皆さまが必要とされる場合は、碧南市にて設置することとなるが、構造上大規模な工事になり難しい。当該箇所から20メートルほど西側のところをご利用いただきたい。

Q4 連絡委員【まちづくり】

区民館等施設整備事業補助について、中区区民館エントランス部分の修繕について、区民館の館内ではなく外側のため補助対象外と市から説明を受けたが、現制度に納得ができないため見直してほしい。

A 市民協働部長

市では区民館の建物に対する修繕補助をしているので、建物であれば補助の対象

だが、外構の場合は補助の対象外となる。ご指摘のエントランス修繕箇所については、区長さんに再度場所を確認させていただき、建物の一部であることが確認できたので、補助金について令和5年度予算に要求をしていく。なお、補助対象としては区民館の内側・外側でなく、躯体の一部として捉えられるかがポイントであり、今回の経緯として、エントランスが建物の一部かどうかの判断に時間がかかってしまい、ご心配をおかけした。

Q5 連絡委員【そのほか】

広報について、今年から月1回となったが、地区の配布物も多いため、月2回に戻しても良いのでは。

A 総務部長

広報へきなんについては、以前より地区から配布物の負担軽減のご意見をいただいていたこともあり、今年度から月1回とした経緯もある。地区によっては、地区の配布物も広報配布の月1回に併せて、配布による負担を軽減できている地区もあるので、ご理解ください。

Q6 連絡委員【福祉・子育て】

民生委員の選出は、民生委員中心で行って欲しい。

A 福祉こども部長

民生委員活動は、主に町内会毎に分かれた区域内の高齢者世帯等への訪問や日常的な声掛け、関係機関への橋渡しなどの活動を行っている。このため、民生委員活動は地域と密着しており、その地域の実情を把握する必要性から、原則としてその地域の住民の中からの推薦を頂いている。また、地域住民に寄り添って、地域福祉の向上にご尽力頂く職務の性質上、その推薦については、連絡委員様を筆頭とする町内会の皆様をお願いしているが、推薦に当たっては、各地区の民生委員協議会の正副会長及び退任民生委員にも、連絡委員の皆様と同様、ご協力いただいている。候補者選任作業の大変さは重々承知するところだが、地区民生委員の皆様との連携のもと、ご理解いただきたい。

Q7 民生委員児童委員協議会【福祉・子育て】

高齢者タクシー利用券について、今後はもっと対象範囲を拡げてもらえないか。

A 健康推進部長

身体状況などにより、くるくるバスの利用が難しく、タクシー料金の負担が重く感じられる方を支援するため、令和4年10月から新たに65歳以上の在宅の者で、住民税非課税世帯の要支援・要介護者に対し、タクシー料金助成券を月当たり700円券2枚の年間24枚(年額16,800円)を支給することとした。今後については、現在、地

域公共交通計画の策定に向けて協議会を設けて検討を行っている。運転免許を返納したり、免許の更新ができなかった高齢者を中心とした交通弱者の移動手段の確保がこの地域公共交通計画の重要なポイントと考えている。移動手段を公共交通に頼らざるを得ない交通弱者の方への対策を、行政だけでなく、民間の事業者などの意見もお聞きしながら検討していく。

Q8 民生委員児童委員協議会【福祉・子育て】

高齢者の集まれる場所について、独り暮らしの高齢者などが、より身近な場所で集れるように市がリードして欲しい。

A 健康推進部長

碧南市は、老人クラブの活動が盛んである。60歳以上の方を対象としており、会員数は6,830人で、60歳以上の人口の31.9%、約3人に1人が加入している。令和4年度の県内37市の中で、加入率は1番である。老人クラブでは、各種スポーツや子どもとの触れ合いなど様々な行事を開催し、楽しく活動されている。また、区民館や老人憩いの家(大浜地区は5か所)があり、更に大浜地区には「大浜まちかどサロン」もある。新型コロナ対策のため事業内容を変更しているが、いきいきサロン事業は令和3年12月から再開している。ほかにも、大浜地区には「藤井達吉現代美術館」や「臨海公園」、「あおいパーク」など他の地区にはない施設もあり、いろいろなイベントを行っている。しかし、こうしたイベントでなくても、ちょっとコーヒーでも飲もうと喫茶店や食事処など、ぜひ、身近な地区の皆さまで、高齢者が孤独にならないように誘っていただき、外出を億劫に思っている方を家の外へ、社会とのつながりを持つことができるようにご協力いただきたい。

市としても、高齢者の外出を促進し、健康保持をしていただけるように、入浴施設の無料券の配布や全長2.4キロメートルあるレールパークの整備、60歳以上の方が利用できる筋トレルーム60の運営、無料の市内循環バスの運行など、介護予防の第一歩である「閉じこもりの防止」につながるよう、また、元気で長生きしていただけるよう引き続き支援していく。

【棚尾地区】CS地区ミーティング

と き 令和4年10月17日(月) 19時～

ところ 棚尾公民館

出席者 20人

Q1 子ども会育成連絡協議会【そのほか】

市民満足度の評価結果について、市民満足度の推移を示すデータや満足度を決定する各評価基準はどのようなものか。

A 総務部長

毎年、市政アンケートを行っており、これが市民満足度の変化を捉える指標の一つと考えている。市政の各分野の施策については、福祉や教育、道路など18項目について、満足度をお聞きしており、「満足」「ほぼ満足」「ふつう」「やや不満」「不満」の5段階で評価をいただいている。また、「碧南市の住み心地」という項目をもうけており、これは各施策をまとめたような項目として考えている。市政アンケートについては、毎年、結果を職員に周知し、その結果を意識しながら、各事業を進めるようにしている。

Q2 連絡委員【まちづくり】

碧南駅からレールパーク旧棚尾駅の動線について、旧棚尾駅広場のイベント会場として活用と駐車場拡大をして、商店街を活性化させたい。

A 開発水道部長

碧南レールパークの棚尾広場は、イベントで利用できるように駅のホームを改修したステージを有する整備を行っている。過去のイベントでは、「碧南レールパークのオープニングセレモニー」や「たなを村まつり」、「ブラアイチ・イン碧南」を開催した実績がある。近年は新型コロナウイルスの影響もありイベントは開催されていないが、イベント会場として利用できる。棚尾広場のステージや各広場を活用するなど、積極的にイベントなどを行っていただきたい。

現在、碧南レールパークの駐車場は、棚尾広場の隣の棚尾駐車場は5台、雨池駐車場18台、三河旭駐車場6台がある。新たに駐車場を整備するには、用地の確保や工事費等、様々な問題もあるので、暫くは現状の駐車場でのイベント開催をお願いしたい。

Q3 連絡委員【そのほか】

連絡委員の役割について、現状、次の受け手を探すのに苦慮しており、連絡委員・町内会長の職務の軽減を図らなければ、受け手がいなくなってしまうのではないか。

A 市民協働部長

町内会の負担軽減については、今年度から2つ実施している。1つ目は、広報の配布回数を月2回から月1回に変更し、2つ目は、資源ごみステーションでの立ち当番制度を廃止している。令和2年から新型コロナウイルス感染症が拡大する中、町内会行事もほとんどが中止になったと聞いている。今年度に入り少しずつ再開の動きとなっているが、行事の運営にも苦慮されていると思う。この2年間の空白が事業を見直す良い機会と捉え、数多くある地区行事において、地区住民のニーズを確認し、実施の是非を考える地区もあると聞いている。連絡委員には多くの役割があり、期待も大きいと思う。町内会長としての役割を担いつつ、いかにして負担を軽減するか、今後、市からの連絡事務について、極力減らすことができないか、連絡委員幹事会などで検討を続けていく。

Q4 連絡委員【まちづくり】

棚尾町内会について、1つ目は若い人の町内会加入者が少ない。2つ目は町内会と八柱神社の運営を別々にした方が良い。3つ目は町内会長の任期を最低でも2～3年にしてはどうか。

A 市民協働部長

碧南市では、「地域まちづくり組織」の設置を推進している。「地域まちづくり組織」は、小学校区を単位として「こんなまちになったらいいな」という地域の将来像を定め、理想的なまちを目指して、自発的、計画的、継続的に活動する住民組織である。地域まちづくり組織と町内会が協力することで、町内会活動の負担を軽減しながら、地域のみんなが関わることのできる継続的なまちづくりを目指すものである。棚尾地区には、「地域まちづくり組織」の準備組織として、平成30年3月から活動を行っている「棚尾まちおこしの会」がある。

町内会の役員さんは、多忙な上、毎年交代するので、「こうしたらもっと良いまちになるのに…」と思っても、なかなか改善できない。ぜひ任期満了後も地区のためにご尽力いただきたい。

1つ目の若い人の町内会加入者が少ないとのご意見について、碧南市では新規転入者の方にはすべて町内会加入のご案内をしている。また、町内会未加入世帯についても、毎年1回ごみ袋配布の際には町内会加入のご案内をして加入促進に努めている。引き続き、町内会加入への案内をさせていただく。

2つ目の神社について、各地区の歴史や経緯の中で現在の形式になったと考えられる。ちなみに私の地区では神社係と町内会役員とは別組織であるが、町内会の役員が終わると奉賛会の役員に移行する形式をとっており、担い手が見つからない中で連動させている。各地区が最も良いと思うやり方で運営していただければと思うが、言われるとおり、町内会と神社は組織や目的に違いがあるので、別々で運営した方が良いと思う。特にお金に関しては明確に区別していただく必要があると思う。

3つ目の任期について、町内会によっては2年連続で町内会長をやるところもある。町内会の実情や課題に合わせて変更することもできる。また、システム変更については、先ほどご説明させていただいた棚尾まちおこしの会や自主防災を考える会と連携する形で役割分担をし、地域の課題に取り組んでいただきたい。

Q5 連絡委員【防災・防犯】

棚尾地区防災訓練について、簡易トイレに使用するテントがグラグラで、実際の使用が難しいため、変更を検討して欲しい。

A 市民協働部長

この簡易トイレに使用するテントは、もともと屋内で使用することを想定していたものであるため、今年度、屋外トイレ用のテントとウェイトとなるブロックを購入し、年内には全避難所に配備する予定である。ご指摘のテントについては、そのまま施設内でのパーティションとして使用していくことを想定している。

Q6 連絡委員【道路・下水道】

堀川や川沿いの今後の除草の予定はあるのか、あるならいつ頃か。

A 建設部長

年に1回の除草を実施している。今年度は、8月5日から8月10日の期間で草刈りを実施し、完了している。また、川沿いの道路との継ぎ目の除草は、要望等あれば適宜現場を確認したうえで、対応していく。今年度は、要望のありました箇所については、9月2日から9月5日の期間に除草を実施し、完了している。

Q7 連絡委員【防災・防犯】

地区で消防団員を探すのは大変難しい。

A 市民協働部長

消防団員の確保は、大きな課題のひとつとなっており、各地域とも毎年、団員確保に苦慮していることは承知している。昨年度、訓練や災害出動した場合の費用弁償(手当)を増額し、団体への支給から個人支給に変更するなど、より消防団員になってもいいと思ってもらえるよう制度の見直しなども進めているところである。また、市と消防団と自主防災会と合同の打ち合わせ会も実施しており、過去における団員の勧誘方法などをお話しさせていただいた。今後、団員確保に向け、一丸となって取り組んでいく。なお、現在の勧誘状況だが、第3分団長に確認したところ、副分団長と団員1名が内々定をいただき、現在は名簿のリストアップを行っている最中で、11月半ば以降から新入団員勧誘活動を行う予定と伺っている。

Q8 連絡委員【環境・衛生】

町内会での消毒作業を、取りやめにするかシルバー人材センターに委託できないか。

A 経済環境部長

現在、地区等の環境衛生事業を支援するため、希望される団体様に害虫駆除用煙霧機の貸出を行っている。この煙霧機は、主に縁の下に消毒薬を煙霧するものだが、最近では、縁の下に煙霧用のホースを挿入するスペースの無い基礎の建物が増えたため、町内会によっては取りやめているところもある。市内全体では121町内会のうち、70町内会が取りやめており、中央地区と棚尾地区では実施している町内会が多く、旭地区、西端地区は実施している町内会はない。取りやめに関しては、各町内会でご判断いただきたい。また、シルバー人材センターへの委託化のご提案だが、全ての町内会が取りやめた時点で、この事業自体を廃止する予定である。それまでは現行の方法で実施する考えであるので、シルバー人材センターへの委託化は考えていない。

Q9 連絡委員【まちづくり】

棚尾ふれあい会館の空調機器更新について、空調機器が古くて部品がないために改修ではなく更新という現状で、何か良い策はないか。

A 市民協働部長

市では区民館の建物に対する修繕補助をしている。空調設備については、天井埋め込み式の建物付属設備に該当するものが補助対象である。8月の連絡委員幹事会にて令和5年度の区民館の修繕予定をお聞きしたところ、棚尾地区からはエアコンを取り替える旨を伺っているので、補助金について令和5年度予算の要求をしていく。また、電化製品の寿命だが、故障したときに必要な部品を保有する期間はメーカーによって違うようです。部品があり、修繕で対応できる場合は、修繕の方が費用も安価になると思われる。

Q10 保育所等父母の会【文化・教育】

小学生の自転車通学について、川口町の子どもたちが低学年も自転車通学と聞き、交通安全上の心配や、雨の日は送迎しているなど保護者の負担軽減のため、くるくるバスなどのバス通学ができないか。

A 教育部長

碧南市内の小学校で、自転車通学しているのは、片道3キロ以上ある川口町に住む児童だけである。学校に確認したところ、川口町の子どもたちは、学校に上がる前から自転車に乗る練習をして、1年生になると自転車で集団登校しており、現時点で、保護者の方からくるくるバスを利用したいという要望はないとのことであった。くるくるバスは、高齢者、障害者等の交通弱者の方々の交通便利を図り、地域社会への

参加を促進することを主な目的として運行している事業で、コース、ダイヤ編成、便数、乗車定員など、運行形態としては通学での利用には適していない。例えば、「満員のため乗車できない」、下校時間は、学年によって、また日によって違うので「下校時に適当なダイヤがない」など、通学で利用するためには様々な課題があるので、ご理解いただきたい。

Q11 老人クラブ連合会【まちづくり】

まちづくり条例について、町内会のさまざまな懸案事項に答えを出し、「協働のまちづくりに関する基本条例」を実のあるものにできるのは、現在の禰宜田市政にしか出来ない、100年後の碧南を日本一コミュニティ豊かなまちを目指してほしい。

A 市長

「へきなんの協働を考える会」において、「子や孫の世代に負担を残さないこと。地域社会で人と人がつながり、生きがいや幸せを感じられること。」この2つを協働の目標として掲げ、まずは、人と人とが知り合う「面識社会」を作り直すことから始めなければならないという認識を共有することからスタートしている。提言書の各項目は、速やかに取り組めたものから、中長期的に時間がかかるもの、優先順位を意識して取り組んできたが、まだまだ道半ばであると認識している。今後も、どこよりも住みやすい、日本一コミュニティ豊かなまちになるよう、目指して取り組んでいく。

なお、今年度も「へきなんの協働を考える会」のアドバイザーであった四日市大学の岩崎学長による市民協働講演会を12月10日(土)午後2時から市役所会議室4・5にて開催する予定である。また広報や連絡委員幹事会にて周知させていただくが、ぜひ皆様にも参加していただき、たくさんの方に継続的にまちづくりに関わっていただきたい。

【旭地区】CS地区ミーティング

と き 令和4年10月18日(火) 19時～

ところ 東部市民プラザ

出席者 25人

Q1 連絡委員【そのほか】

職員改善提案について、改善の効果額はみなし金額ではないか。また、市民はどの数字を見ればよいか、職員の負担はないか。

A 総務部長

職員改善提案の経費改善効果については、各提案者が事務改善に伴う削減した経費を積み上げ、改善効果額として算出している。補助金等効果額が分かるもの以外では、平均単価を使うなど想定した金額となるため、みなし金額となっているのが実情だが、無駄を省き、アイデアにより創出された財源を市税の落ち込んだ時期でも市民サービスに影響がないよう有効に活用していく財源となっている。市民の皆様へは、毎年、市長よりC・Sメッセージの中でお知らせしているのご確認いただきたい。また、令和3年度は過去最高の4,921件となり、職員の中でも事務改善に対する意識がしっかりと根付いている成果と考えている。件数が増えることにより職員の事務負担が増える部分もあるが、役所にありがちな前年踏襲の仕事のやり方にとらわれず、少しでも改善できるところは改善するという職場の環境づくりになりつつあると考えている。提案する職員が少しでも負担軽減となるような改善をし、今後とも改善提案制度を続けていきたい。

Q2 連絡委員【文化・教育】

通学路の総点検について、近年、新規住宅が増えて、家が建つことにより見通しが悪くなった交差点が増えているため、総点検を実施し、標識やカーブミラーの設置やゾーン30エリアの見直しをしてほしい。

A 教育部長

通学路の安全点検については、一斉下校での実施、PTA活動の一環としての実施など、毎年、各学校にて通学路の安全点検を実施している。その結果、改善要望等あれば学校から市教育委員会庶務課に報告をいただき、碧南市通学路安全対策連絡会で協議をしている。連絡会で協議の上、必要な箇所については碧南警察署、市土木港湾課、地域協働課、学校教育課、庶務課の担当者が現場確認をした上で、具体的な対策を講じている。しかし、横断歩道の設置などの対策が難しい箇所については、通学路の変更や見守り活動、交通安全指導を行い、子供たちの安全確保に努めている。一旦停止やカーブミラーの設置、ゾーン30の見直しなどの具体的な箇所

の要望があれば、地域協働課へご相談いただきたい。

Q3 連絡委員【環境・衛生】

浄化槽補助金について、流作町には下水道がないが、なぜ浄化槽補助金がなくなったか。

A 経済環境部長

浄化槽の設置に対する補助金については、市内の公共下水道事業認可区域以外の区域において、くみ取り便槽又は単独処理浄化槽から合併浄化槽へ転換されるか、又は高度処理型合併浄化槽の設置を行う場合を交付対象としている。流作町は下水道整備の計画がないので、地域的には補助金の交付対象となっている。リフォームなどで合併浄化槽へ転換される場合や、住宅自体を建築する際に高度処理型合併浄化槽を設置する場合は補助の対象となる。詳しくは、下水道課にて浄化槽設置予定地が事業認可区域外ということを確認の上、環境課へ問い合わせいただきたい。

Q4 連絡委員【防災・防犯】

昨年度平七区から提案した防災に関する意見、1つ目が文化会館南側の資機材倉庫を現駐輪場あたりへの移設について、2つ目が日進公民館の指定避難所から外すことについて、3つ目が日進小学校にある可搬ポンプ倉庫の前のぬかるみについて、4つ目が日進小学校の防災備蓄倉庫の移設について、5つ目がハザードマップの更新について、6つ目が避難行動要支援者名簿の個人情報保護の観点からの家族・ご近所での避難対応について、以上6つの意見のその後は。

A 市民協働部長

1つ目の文化会館南にある資機材倉庫の場所については、ご意見を踏まえて、駐輪場あたりに移設が可能か、他に候補地があるかどうかを施設管理者等と協議していきたい。

2つ目の日進公民館については、浸水想定があることから、指定避難所から外すことを想定し、自主防災会との紐づけもなかったため、昨年度からキーボックスの暗証番号を地区の方々にお伝えしていなかった。その後、地区より日進公民館の資機材については、移設するまではそのままのご要望をいただいております。資機材倉庫等は設置したままの状態となっている。

3つ目の日進小学校にある可搬ポンプ倉庫の前がぬかるんでいる件だが、現在可搬ポンプが置かれているところは浸水地域であるので、今後、移設も含めて一度対策の検討をさせていただきたいが、市としても暫定で碎石をまいていきたい。

4つ目の日進小学校の防災備蓄倉庫の移設についても、浸水地域ということもあり、移設の方向で進めているが、防災備蓄倉庫は建築物として建築確認申請が必要

となるので、移転先での建築が可能か要件等を検討している。

5つ目のハザードマップの全面改訂を、現在のところ来年度中に実施する予定で事務を進めているが、この地区は浸水被害が発生する地区でもあるので、浸水被害エリア外へ早めに避難いただきたい。

6つ目の避難行動要支援者にとって、大災害の際、最初に駆けつけることができる方は、家族やご近所の方である可能性が高く、日頃から、顔の見える関係が構築されることが大切であると考えている。避難行動要支援者名簿については、個人情報の提供に同意した方について、自主防災会を始め、消防署、警察署、民生委員、社会福祉協議会、地域包括支援センターに配布しており、避難支援に関わる目的以外での使用や、他人に情報を漏らすことは固く禁止されているが、個人情報の管理徹底について、今一度、周知を図る。

Q5 連絡委員【環境・衛生】

平七町4丁目のごみ集積場へのゴミ出しが、カラス除けネットもされず、ゴミが散乱してしまう。

A 経済環境部長

宅地開発等で新たに住宅地が造成される場合に開発行為などは建築業者に事前相談を義務付けており、燃やすことのできるごみの集積場所をどこにするかを事前に検討していただくよう、お願いしている。ただし、個別の新築住宅などの場合は既存の集積所への排出をお願いしており、今回の平七町4丁目の案件についてはこちらに該当する。住宅の増加により、既存の集積場所へのごみの排出量が増えたため、場所の分散化を図ったところ、児童の通学に支障を来すため廃止になったと担当部署より報告を受けている。また、ご指摘いただいたアパートは少し前までネットがかかっているにも関わらず、カラスが群がっているのをよく見かけたが、最近ではあまり散乱していないように感じている。ごみ集積場所について問題があれば直接環境課にご相談いただきたい。

Q6 連絡委員【防災・防犯】

霞浦神社前のくるくるバス停留所で、バス待ちの人が車道に出ることがあり危険。

A 経済環境部長

現地を確認した。数メートル南にガードレールの切れ間があるが、こちらは横断歩道がある関係でバス停を移動することができない。バス利用者の待機場所としてより安全な場所を検討した結果、公衆電話より数メートル北側に10月12日より移動した。シルバーカーをお持ちの方が待機する場所として車止めのポールがあるので、バスを乗降する場所としての一時的待機場所としては、従前の場所より待機しやすいかと判断した。今後ともお気づきの点があれば商工課までご連絡いただきたい。

Q7 連絡委員【防災・防犯】

霞浦神社前の横断歩道を渡ろうとしても、止まる車が少なく、また、緩いカーブのため危険。

A 市民協働部長

道路交通法では、横断歩道は歩行者優先で、人が立っていれば、自動車は必ず停止をして歩行者を渡らせなければいけない。ただ、現実には歩行者が立っていても自動車がなかなか止まってくれない。とても残念なことだと感じている。これはドライバーのモラルや法令順守意識の欠如に起因するものと考えている。碧南市では、毎月11日の横断歩道の日には、警察や関係団体と協力して横断歩道上の歩行者保護のイベントを実施しており、更には広報やホームページ等を利用して啓発に努めている。また、現場に啓発看板を設置する方法もあるので、一度、地域協働課と設置個所等についてご相談いただきたい。

Q8 連絡委員【まちづくり】

町内会・消防団加入の壁について、両団体とも加入せずに近所づきあいしなくても、生活できてしまい不便がない、何もしなくてもよい碧南市ではなく、魅力ある碧南にしていきたい。

A 市民協働部長

市民公益活動に対する支援や地域まちづくり組織の設立に対する支援を引き続き行っていく。なお、日進地区においては、日進みらいの会が平成25年7月に設立されている。公園・県道沿いの除草や花植え、資源回収倉庫管理や公民館夜間管理、親子ふれあいデイキャンプや公民館まつり、愛のパトロールや防火夜回り、さらには青色パトロール巡回等様々な分野で活動をされている。これらの活動を通じて魅力あるまちの実現に寄与していただいている。

Q9 連絡委員【道路・下水道】

霞浦神社前の県道について、アスファルトが欠けて陥没しているので補修をして欲しい。

A 建設部長

ご指摘の道路は、愛知県が管理している一般県道米津碧南線だが、現地を確認し、転倒等の危険性もあったので、本市において応急的にアスファルト合材で簡易補修をした。また、全体的にひび割れも生じていることから、管理者である愛知県(知立建設事務所)に対応いただくように連絡している。道路については、市土木港湾課までご連絡いただければ対応していく。

Q10 連絡委員【道路・下水道】

目視で確認できない側溝、用水路の管理について、蓋がかかっている側溝や用水路について、現在、市が行っている管理について具体的な例を教えて欲しいということと、地域住民自身が何をどこまで行えばよいか。

A 建設部長

市で管理している排水施設は、大きく分類すると、道路側溝、雨水排水路、準用河川に分かれる。私からは土木港湾課が管理している道路側溝、準用河川についてお答えする。かつては蓋のない側溝が多く存在しており、市民や沿線の方が目に触れやすいものとなっていたが、現在は生活環境の変化により、車両の通行や環境衛生の向上のため、蓋付きの側溝を整備している。細い路地や市道のいわゆる生活道路の側溝は、職員による道路パトロールや市民からの通報により現地確認を行い、堆積土砂等あれば清掃等を実施している。また、県道の側溝等についても、市と同様の維持管理をしていると聞いている。準用河川については、市内4つの準用河川を管理しており、八村川についても、パトロールなどにより必要に応じて草刈りや浚渫を行っている。

A 開発水道部長

私からは下水道課が管理している雨水排水路についてお答えする。日進小学校運動場の下に埋設されている排水路がこれに該当する。排水路には、蓋のないものや、道路に埋設されているものがある。蓋のない排水路から、蓋のある暗渠排水路に切り替わる部分には、スクリーンという格子状の構造物が設置してあり、安全対策およびごみの流入防止を図っている。蓋のない排水路では、年に1~2回清掃や除草を行い、暗渠排水路では、土砂の堆積が多い場所を中心に清掃を行っている。また、台風や大雨が予想される場合には、事前に、このスクリーンのごみ片付けを行い、道路内の暗渠排水路の土砂の堆積状況を確認するようにしている。また、大雨等による浸水被害が生じた区域については、土砂の堆積状況を個別に確認し、対応している。

地域住民自身は何をどこまですべきかのご質問だが、雨水排水路については、施設規模が比較的大きいものが多いことから、基本的には、市で清掃、除草等を実施している。なお、地区の人達により清掃等を行っていただいた際は、連絡をいただければ、市で土砂や堆積物は回収処分をする。

Q11 老人クラブ連合会【そのほか】

街の住み心地について、8月25日中日新聞掲載の「街の住みこちランキング2022」の記事で、近隣の刈谷市は189位、安城市は237位だった。碧南市の掲載はなかったが、碧南市には、生活利便性をよくし、発展性のある市になって欲しい、文化活動の活発な元気な市になって欲しい。

A 総務部長

8月25日(木)の中日新聞に、賃貸住宅建設の大東建託が8月24日に発表した「街の住みこちランキング2022」が発表された。このランキングはあくまで大東建託が独自の調査項目を定めて実施しているものであり、20歳以上でインターネット回答をした者の集計結果によるもの。この結果において、高齢者や住んでいる者の意見がどの程度反映されているのかは疑問が残るところではある。ただ、一つの見方としてはこのような結果があるととらえている。一方、市としては、東洋経済新報社が発行している都市データパックの住みよさランキングについては、国政調査における統計データなどを元に、他の自治体との比較もしっかりできており、重要な一つのランキングとして認識している。なお、都市データパック2021における碧南市の住みよさランキングは、全国46位だった。詳しい結果については、市ホームページ上の市長のC・Sメッセージ令和3年8月にも掲載されている。

そして市としては、碧南市に住む人の声が一番重要なものであると考えている。そのため、毎年市政アンケートを実施、皆さまからいただいた声を市政に反映できるよう、日々努めている。市政アンケートの「碧南市の住み心地」についての項目があり、「住みやすい」「どちらかと言えば住みやすい」「どちらかと言えば住みにくい」「住みにくい」の4段階で回答をいただいており、その中で「住みやすい」「どちらかと言えば住みやすい」と回答した人の割合が、令和3年度85.5%、令和2年度85.9%と85%を超える高い水準を維持している。ご質問の生活利便性を向上、文化活動の活発についてだが、一つずつ地域にある課題を解決し、市を発展させていきたい。

A 教育部長

文化活動については、令和3年度に「第3次碧南市生涯学習推進計画」を策定し推進している。基本理念として「だれもが楽しく学び ともに輝くまち へきなん」を掲げ、市民一人ひとりがいつでも、どこでも、生涯にわたって、いきいきと学び、その成果を地域社会に活かすことで、自分らしく活躍できるまちづくりを目指している。現在、文化会館や公民館など各施設にて様々な講座を開催し、学習機会の提供を図っている。また、碧南市には、芸術文化ホール、藤井達吉現代美術館、哲学たいけん村無我苑などあり、コンサート、企画展や講座の開催など様々な文化活動や情報発信をしている。今後も市民ニーズに対応した魅力ある講座やイベントを企画し、実施していくことで、市民の文化活動の向上に努めたい。

Q12 連絡委員【防災・防犯】

東南海地震の対応、防災訓練について、現状、各地区年間10万円の予算ですが、重点地区を決めて、予算を年間100万円としたり、自主防災会の任期を伸ばすなど、人もお金も厚みを付けてみてはどうか。

A 市民協働部長

各自主防災会への市からの委託料は10万円だが、基本的にコンテナの備蓄用品の中で耐用年数など期限切れにより買替えの必要な消耗品は、あまり多いわけではないので10万円を有効活用いただきたい。また、1年の任期では、新たに活動を展開していくことはなかなかできないので、複数年度実施していただくよう会議等をお願いしているが、引き続き継続的な活動をしていただけるよう依頼していく。また、重点地区を決めて訓練をということだが、毎年代表幹事が選出される地区を中心に90万円の予算で総合防災訓練を実施しており、地区の意向を踏まえる中で、訓練メニューも考えており、重点地区的位置づけとなっている。

Q13 小中学校幼稚園PTA連絡協議会【福祉・子育て】

子育て支援について、給食費や学年費、0～2歳児の保育料について所得制限をなくした無償化や半額補助はできないか。

A 福祉こども部長

コロナ禍における子育て支援策における市の独自施策として、昨年度実施の高校生年齢以下1人10万円を給付する「子育て世帯等臨時特別支援金支給事業」では、国の制度では受給できない所得制限を超えた扶養者に対しても支給を行うとともに、今年度、物価高騰による子育て支援策として、所得制限を加えることなく高校生年齢以下の児童に対し、1人1万5千円の子育て世帯臨時応援給付金の支給を行ったところである。さらに食料品高騰における給食費の引き上げを行わないよう、民間保育園・こども園への給食費補助を行うなど、公立保育園・幼稚園も含め公費負担での対応を行っている。また、保育施策についても、3歳未満児における保育料の軽減及び免除措置を講じている。これは、低所得世帯や多子世帯、ひとり親・障害者世帯等における経済的状況や家庭状況に応じて、経済的な支援策として実施している。

学校給食費や3歳未満児の保育料及び保育施設給食費における一律の軽減・減免措置は、現段階では考えていないが、新型コロナウイルス感染症の動向や昨今の物価高をはじめとする社会情勢等を踏まえ、適宜、国県の動向を注視する中で、より良い子育て環境の充実に努めていく。

【西端地区】CS地区ミーティング

と き 令和4年10月28日(金) 19時～

ところ 農業者コミュニティセンター

出席者 23人

Q1 青少年育成推進員協議会、民生委員児童委員協議会【まちづくり】

油ヶ淵水辺公園について、今、全国的にはやっているキャンプ場やグランピング場、バーベキュー場やカヌー遊びなど、集客施設の民間誘致をしてみてはどうか。また、現在多くの集客をしているあおいパークに同様の施設を隣接させ、もぎとり体験とセットにしてみてはどうか。また、油ヶ淵水辺公園が今後、どのように工事が進み、将来的にはどんな規模の公園になるのか。

A 開発水道部長

油ヶ淵水辺公園は、西三河地域で初めての県営都市公園として、油ヶ淵の貴重な水辺の環境資源を生かし、自然とふれあえる憩いの場となるよう、事業が進められており、碧南市側の面積は45.2ヘクタール、安城市側の面積は31.0ヘクタールで、全体をA～Eの5つのエリアに分けている。平成30年4月29日に整備区域の一部として、碧南市側の花しょうぶ園周辺のEエリアの「水生花園」と安城市側の見合い橋を渡った右側のBエリアの「自然ふれあい生態園」が開園し、その後も整備が進み、現在では全体で約9.8ヘクタールが供用しており、事業の進捗が図られている。今年度は長田川に架かる「公園橋」の碧南市側の橋台の工事に着手される予定。また、今後の予定としては、5年度に安城市側の橋台の工事、6年度に碧南市と安城市を結ぶ上部工の工事、7年度・8年度に多目的広場の整備が予定されている。この他、愛知県からは事業の実施時期は未定と聞いているが、平和町のDエリアの交流広場では、県民の多様なニーズに対応し、憩いの場の形成を図るとされており、直販店舗やレストランなどがあるアグリプラザが計画され、平和町の対岸側の安城市側のAエリアの矢作川水園では、バーベキュー広場などが計画されており、それぞれが特徴を持つエリアとして計画されている。

イベントでは、7月30日(土)に「油ヶ淵の夏」と題し、子どもたちが自分で作った船を浮かべたり、うなぎに触るなど、親子づれで楽しむことができるイベントを実施している。また、11月6日(日)には、「ふれあいフェスタ」が予定されており、安城市側の「自然ふれあい生態園」の芝生広場で、「クイズラリー、ワークショップ、フードコーナー、大道芸」などが開催される。この他にも、愛知県では水面を利用したイベントも、将来的には開催したいと聞いており、多くの方に利用して頂けるよう、事業が進められている。これらのイベントの情報や水辺公園の追加供用については、広報へきなんやホームページにて情報提供しているので、イベントへの参加や施設の利用をお願い

いしたい。

A 経済環境部長

あおいパーク隣接にキャンプ場やグランピング場などの民間施設を誘致することについては、当該地域が市街化調整区域であることから極めて困難である。しかしながら、あおいパークの産直市場、もぎとり体験、入浴施設、バーベキュー施設は、アウトドア活動のニーズと重なる部分が多いと思われる。あおいパークが開園から間もなく25年を迎え、施設の老朽化も進んでいるので、施設改修を検討する時期になってきている。あおいパークリニューアルの際には、アウトドアファンの獲得という視点も含めて検討していく。

Q2 民生委員児童委員協議会【そのほか】

統一教会の問題が社会的になっているが市長の見解を教えて欲しい。

A 市長

旧統一教会の関連団体との関係で、一連の報道等を目にされた方も見えるかと思うが、まず、初めに申し上げたいことは、私は今まで、市長という立場での公務と、それ以外の活動、政治家としての活動やプライベートの部分とを、きちんと区別して行動しているということである。旧統一教会の関連団体が実施するイベントへの出席等について、公務として行っているものは一切無いことから、市政には何ら影響はなないのでご安心いただきたい。

ご質問の件については、これまでマスコミへの取材や市議会の一般質問などでもお答えしてきたが、旧統一教会については、過去に悪質商法等のトラブルがあったことは認識しており、昨今の報道で旧統一教会及び関連団体と政治家とのつながり等が報じられていることは承知をしている。しかしながら、今までのところ、当該団体に対して、法に基づく何らかの制限措置が取られているということではない。今後、法的な根拠に基づく制限措置などが取られれば、当然、それに従い対応することになるが、憲法第14条に規定する法の下での平等という原則がある以上、公職にある市長という立場で、特定の団体について個別に見解を述べることは適切でないと考えている。現時点では、国による調査等の動向を見守っていく。

Q3 連絡委員【福祉・子育て】

敬老記念品の配布について、現在、男女ともに平均寿命が80歳を超えてきており、「敬老」の意味が薄れているように感じるため、90歳以上の方に配布するようにしてみてもどうか。

A 健康推進部長

平均寿命の延伸などにより、高齢者福祉サービスのニーズは年々、増え続けており、高齢者福祉サービスに係る財源を手厚くしていくことが必要と考え、現金支給であ

る敬老金支給事業は、年齢を満85歳、90歳、95歳、99歳以上から満90歳と99歳以上へと変更した。この敬老金支給事業とは別に、地区の皆さんにご協力をいただいている地区敬老会助成事業については、6月1日現在で数え80歳以上の方を対象に実施していただいている。地区にご協力いただいている敬老会助成事業については、高齢者をお祝いするというだけでなく、これまで碧南市を支えていただいた、また地域でご活躍いただいた、高齢者を敬い、敬意を表する事業としての意味合いもあり、今のところ対象年齢の基準を維持していきたい。地区の皆さまにとっては、敬老事業を行っていただくことは、ご負担も大きいと思うが、ご協力いただきたい。

Q4 連絡委員【まちづくり】

くるくるバスの本数について、安城のあんくるバスに比べ本数が少なく、運転免許を返納した高齢者などの交通弱者や交通の便の悪い地域の方などにもっと便利に利用してもらうために、増便してはどうか。有料化も視野に入れて検討して欲しい。

A 経済環境部長

自家用車などの移動手段を持たない方にとって、くるくるバスが重要な役割を担っていることは認識している。しかし、くるくるバスの利用者数については、平成14年度の約16万6千人をピークに減少を続け、令和3年度は約8万9千人となっている。高齢者が増加する一方で利用者が減少しているのは、高齢者の免許保有率が向上していることが要因と考えている。高齢者の免許保有率は、池袋での高齢者の事故をきっかけに一時、免許返納の割合が増加したものの、最近ではサポカーなどの普及により再び上昇している。くるくるバスを増便することが、免許返納を促し、利用者の増加にどの程度つながるのかは不透明である。くるくるバスを含めた公共交通について、市民の意向や問題点などを伺い、分析を行うためのアンケート調査を10月中にするので、結果を分析し、今後の方向性について検討していく。

Q5 連絡委員【まちづくり】

グラウンドゴルフ場の代替地の確保について、油ヶ淵水辺公園内の多目的広場整備中にグラウンドゴルフ場が一時的に使えなくなってしまう。先日行われた関係者での打合せで意見の出た、宮下住宅吹上側の用地で利用できないか。

A 建設部長

宮下住宅(吹上側)の解体工事の全体工期だが、令和4年11月頃から令和5年9月頃を予定している。工事内容は、住宅棟やブロック擁壁など解体に加え、水道管やガス管などの埋設物の撤去を予定している。なお、通路の一部には公共下水道本管が埋設されており、敷地内の雨水排水も排除する必要があるため、必要な通路は残す計画であり、住宅敷地全体が一体的な敷地とはならない。残地する通路等の計画については、今後示していく。宮下住宅跡地の恒久的な利用については、公共用地と

して適切な利用方法がないか、地域の皆さまの意見をお聞きしながら検討していきたい。なお、多目的広場の整備に伴う代替え施設としての暫定的なグランド整備については、西端地区や地元の皆様からご要望受けているので、市として検討をしている。所管であるスポーツ課及び都市整備課を交えて協議をしていく。

Q6 連絡委員【そのほか】

市民税について、食品など物価上昇しているのので、市民税の減額をお願いしたい。

A 市民協働部長

市民税の減額には2つの方法がある。1つ目は、減免制度である。一定の所得の納税者本人が亡くなられた場合や、ケガや病気、会社の倒産などにより所得が大きく減少した場合、災害により損害を受けた場合など、納税者の個々の事情により市民税を減免する制度となっている。したがって、全市民に影響が及ぶ物価上昇という理由は、減免には馴染まないものである。2つ目は、税率の引き下げだが、税率は、法律により標準的な税率を採用しており、本市が独自で引下げすべきものではないと考えている。

また、碧南市では目的税である都市計画税において、平成19年より0.3%から0.05%引き下げ、0.25%としている。これは法律において、標準税率ではなく、制限税率として0.3%と規定しており、各自治体の判断で税率を定めるものだが、県内の約6割が0.3%としている中、0.05%引き下げている。なお、今回の物価上昇は、全国民に影響を及ぼすため、低所得者に対する施策として給付金支給事業を実施する。まず、国の施策として、電力・ガス・食料品等の価格高騰による負担増を踏まえ、住民税非課税世帯に5万円の給付金事業を10月から実施するほか、本市の独自支援策として、市税等を財源に5万円給付金事業には該当しない住民税非課税の65歳以上の高齢者に、1人15,000円の臨時応援給付金支給事業を実施する。

Q7 連絡委員【そのほか】

次期町内会長の選出について、今は町内会長が次の人をお願いしていますが、引き受けてくれる人がいないため、何か良い案はないか。

A 市民協働部長

残念ながら、ここで話しできるような妙案はない。いろいろな方々に候補者を確認し、お一人ずつにお願いするしかないものと思っている。地区によっては、2年前に選出するところもあるようだが、どの地区も次期町内会長の選出には苦慮していると伺っている。なお、もし、町内会の世帯数が減少したことで選出が困難になってきたということであれば、町内会の再編を行うということもご検討いただければと思う。その際は、地域協働課までご相談いただきたい。

Q8 連絡委員【まちづくり】

札木公園内の夜間灯の設置について、夜間は真っ暗で声のみが聞こえる状況のため街灯を設置して欲しい。

A 開発水道部長

札木公園内には、園路灯として照明が2基3灯設置してある。しかし、8月末時点では、ブレーカーの故障により照明が消えていたので、9月上旬に修理を行い、現在は点灯している。今後は、担当課にて、照明の点灯確認を定期的実施する。

Q9 連絡委員【防災・防犯】

市の指定する避難所と災害救助拠点について、3つあり、1つ目は、西端は地区の人口8,200人に対して、避難所は5か所で収容人数は929人とわずか11%であり、中学校の体育館や教室棟など避難所の増加をして欲しい。2つ目は、災害救助物資の供給拠点として清水口交差点南西の農地を整備してはどうか。3つ目は、西端保育園は避難所に指定されているが低地にあり水害の危険性があるため至急見直しをして欲しい。

A 市民協働部長

西端地区の想定避難所避難者数は1千5百人ほどで、5百人以上の不足が生じる。現実的に、避難所に避難者が殺到した場合には、例えば学校では、体育館のみならず、教室棟についても、避難者を収容しなければいけないようなこととなるのが想定されるので、室内に置いてある私物や施錠、授業の再開など、多くの問題があるが、避難所の運営方法などについて、今一度学校側と協議を進める。西端地区は全体的に標高が低いことから、西端保育園も含めて利用できる避難施設が少ないということは認識をしており、また浸水想定のない場所での、新たな避難所確保も難しい状況にある。ただ、洪水や大雨等の水害の場合は、事前にある程度予測が可能であるので、早めに避難行動をとっていただき、場合によっては、浸水想定のない地区にお住いの知人宅や避難所へ避難することが大切になる。地区によっては、市が指定した避難所のみこだわらず、市が指定した避難所に加えて地区独自で神社等を避難所として定め、町内別に避難先を指定している地区もある。また、過去の震災においては、行政が指定した避難所ではない場所に大勢の住民が集まり、自主避難所として運営されたケースも多々あると聞いている。

1つ目の指定避難所の追加は、他に適する公共施設がなく、職員の人員配置などなかなか難しいところはあるが、指定避難所の絶対数が不足しているので、一時退避場所での対応が可能かどうか、民間施設を借りることが可能かどうかなど、検討していく。

2つ目の災害物資の供給拠点ですが、大規模な災害が発生し、県内外からの広域的な応援を受ける場合に、自衛隊・警察・消防を始めとする広域応援部隊等の展開

及び宿営の拠点、資機材・物資の集結・集積に必要となる防災活動拠点として、臨海公園を設定している。これは、市内全域を考えたときに、輸送に利便性がよく、県が指定する緊急輸送道路に面していることから定めているので、ご理解いただきたい。また、緊急時のヘリコプター離着陸場所としては、臨海公園大芝生広場、碧南高校グラウンド、西端中学校グラウンドを設定している。

Q10 連絡委員【防災・防犯】

広域避難について、大久手地区は最寄りの避難所の農業者コミュニティセンターまで3キロメートルだが、安城市榎前へは数百メートルで行けるため、近隣市と協議をして広域で一番近い避難所に行けるよう検討して欲しい。

A 市民協働部長

広域避難については、西三河地域でも話題となっており、他自治体へも広域避難できるよう、協定締結等を検討しているが、広域で発生する大規模地震時には、どこの市町も避難所が不足するのが現状。近隣では、昨年度より安城市と広域避難に関する協議を進めており、大規模地震時の対応については難航しているが、高潮時等においては避難する世帯の地域が限定されるので、浸水しない地域で指定避難所に余裕があれば受け入れて頂ける方向で調整をしている。今後も詳細な部分においての協議を進め、相互の広域避難が可能となるよう努める。

Q11 連絡委員【まちづくり】

大久手地区、西荒居地区の都市計画用途地域について、両地区とも高齢化が進む中、子育て世帯の増加となるよう、大久手地区は北部工業団地と併せて市街化の促進を、西荒居地区は碧南高浜環状線が開通しており、沿道の市街化を促進して欲しい。

A 建設部長

西端地域では、鉄道など公共交通機関に近いところや、都市計画道路に隣接するなど交通の便がよいこと、また、災害リスクが低いこと、さらには公共施設に近接している等の生活利便性が高く、市街化区域に隣接していることなどを総合的に判断して、立山町周辺を土地区画整理事業等による都市基盤整備を前提に、新たな住宅地として位置づけている。なお、市街化区域への編入については、北部産業地整備等による、人口増加の状況の他、令和4年12月に期限を迎える生産緑地の制限解除において、市街化区域内での宅地化の進展などを注視した上で、立山町周辺地区の都市基盤整備の可否について判断していく。

Q12 連絡委員【防災・防犯】

県道304号碧南高浜環状線の押しボタン式信号設置について、交通量も多く、緩

やかなカーブの下り坂であるため、道路横断時に危険を回避するため西荒居区民館横に車両感応・押しボタン式の信号を設置して欲しい。

A 市民協働部長

交差点への信号設置は警察署の管轄で、交差点の形状や自動車の交通量等を総合的に勘案し、警察署が判断をしている。ご指摘のとおり、南進(碧南)方向は下り坂で、通過する自動車のスピードが出やすい環境にある。事前に碧南警察署交通課に要望・確認したところ、「主道路、これは南北の道路になる、これに対する従道路、これは東西の狭い道路になる、この道路の交通量が少なすぎることと、従道路の幅員が狭いことから現時点、信号機設置の条件をクリアできていない」との回答を得た。今後とも信号の設置要望については、碧南警察署の交通課に直接要望することになるが、地域協働課にご相談いただきたい。

Q13 連絡委員【道路・下水道】

西尾知多線の拡幅について、今年の秋には県から道路計画案が出る予定と聞いているが、区としても計画案を元に、けんしん交差点の地権者に打診をしていきたいため、計画の進捗状況をスケジュール感をもって教えて欲しい。

A 建設部長

県道西尾知多線の道路拡幅については、以前から西端区から要望を受けており、愛知県にて、西端小学校西交差点からけんしん付近までの区間において、将来の道路計画の検討を進めている。この道路検討においては、けんしんから西端小学校西交差点までは、歩道付きの2車線道路とすることが望ましいとのご意見をいただいている。ご質問のけんしん付近の交差点の懸案事項もあるが、まずは、地区からご要望をいただいている西端小学校南付近で特に道路が狭い箇所について、愛知県と市で将来の道路計画を見据えた暫定整備の検討を進めている。